

平成 24 年度第 3 回 C C C 土木工学グループ運営委員会議事概要

- I. 日 時： 平成 24 年 8 月 27 日 14 時 00 分から 17 時 00 分まで
II. 場 所： 公益社団法人私立大学情報教育協会 事務局 会議室
III. 出席者： 片田敏行委員、武田誠委員、北詰恵一委員（Skype）
（事務局）井端事務局長、森下主幹、野本職員

IV. 議事概要

1. 学士力の背景について

学士力を設定した背景について作成された案を読み合わせ、内容に関する説明がなされた。背景の部分では到達目標については言及せず、背景認識を整理考慮して、文章が作成された。以下におもな意見を列挙する。

- ・ 土木工学の特徴を示す部分に文章を使用する。
- ・ 到達目標の説明は後で示すのでここでは示さずに、到達目標のみを最後に列記する。
- ・ 土木工学の役割・使命をとして、社会基盤の整備から生命・資産、生活・文化、経済を支え、自然に配慮した環境づくりが必要。
- ・ 土木工学教育の在り方は、社会基盤と自然環境および社会への影響の重大性を理解することができる技術者を目指すべきである。
- ・ 社会基盤事業は、長期に渡って非常に多くの人に関わることから整合性のとれた運営・管理が必要で時代の変化に対応できるあり方を考える必要がある。
- ・ 市民性、公共性、倫理観は大事なキーワードである。

2. 到達目標の解説について

解説について作成された案を読み合わせ、到達目標で何を学生に教える必要があるのかを示した後で、そのために必要なことがらを示す流れの文章を作成した。作成のための議論のおもな意見を列挙する。

- ・ 土木工学の専門基礎を身に付ける必要があり、建設や設計・調査などの実務において活用される知識・技術である。
- ・ 他者に教える場面も想定されたため、分かりやすく説明できる能力も求められる。
- ・ 自然環境および社会に与える影響・効果を理解する必要がある。
- ・ 公共性が強い技術者倫理を身に付ける必要がある。
- ・ 社会基盤施設の財源はすべて最終的には税金という形で国民が負担することに特徴がある。土木事業の公共性は、適切な計画、安全かつ低コスト、目的にかなった土木施設を建設することを求める。
- ・ 社会基盤施設の所要機能、安全な強度、環境との調和の 3 つの要素がバランス良く、維持管理に留意した総合マネジメント力が必要とされる。
- ・ 古来より、人類は様々な土木技術を用いて社会基盤施設を建設してきて、その工法は、現代でも有効性が認識され、施工されており、文化や自然などの地域特性に精通することが、その地域に立脚した社会基盤整備には必要である。

V. 次回の開催日程

日時：平成 24 年 9 月 20 日 10 時 00 分から 12 時 00 分まで